

仙台都心部のバス「100円パッケ」

転入者も利用しやすく

NPO法人 乗り方など手ほどきガイド作り

仙台市交通局と宮城交「ラム」の会員約十人が中心になって今年一月に作る運賃100円のバス事業「100円パッケ」の利便性を高め、市民も交えて「100円パッケ」の作り方を進め、市内の特定非営利活動法人(NPO法人)が行政と共同で、新しい利用ガイドの作製を進めている。

対案路線を色別に表示した地図や、JR仙台駅西の良好な乗り場案内図など、メンバーはアイデアを出し合っている。ガイド作りは、市の依頼を受けたNPO法人「まちづくり政策フォー

ム」

で、二十日には青葉区のエル・パーク仙台で、一般市民も募って公開ワークショップを開催。拡大コピーしたガイドの原案を掲示し、参加者から改

良してほしい点や分かった点などを書き込んだら、

「まちづくり政策フォーラム」は市民から寄せられた市民の意見も参考に、今月末までに原案を完成

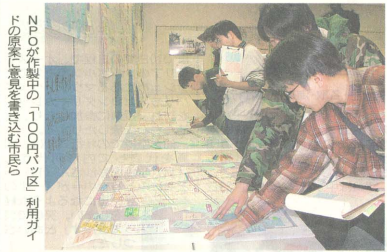
は「とりわけ仙台への転入者や郊外に住む市民にガイドを見せられ、公共交通による市内の散策などに生かしてほしい」と話している。

させて市交通局に提出。市交通局は宮城交通と協議し、発行する時期や部数を検討していく。

100円パッケは市中心部で設定した運賃均一区間では、どの路線バスでも100円で乗車できる。

従来の利用ガイドは市交通局が二〇〇二年二月の運行開始時と、昨年十月の対案区間拡大時に作製したが、いずれも路線図が中心だった。

「まちづくり政策フォーラム」代表理事の一人、東北大学院経済学研究所の増田隆教授(地域計画)



NPOが作製中の「100円パッケ」利用ガイドの原案に意見を書き込む市民ら